

## 1. 単元名 食料（米、さつまいも）の栽培と 道具

### 2. 単元の目標

- ・食料（米、さつまいも）の栽培のための準備、手順を知り、実際に畑の草引きをしたり、畑を耕して畝を作ったり、バケツに田の土を入れたりして、米、さつまいもの苗を植える。その後、度々畑の整備をして食料を収穫する。 (知識・技能)
- ・食料の栽培を体験して、「たいへんだったこと」「一生懸命したこと」をふりかえり、栽培に必要なものは何か（土、水、肥料、光など）考える。また、専門の農家が食料を生産している動画を見て機械化されていることを知ったり、日本のどこでさつまいもが多く生産されているか資料で調べたりして、自分たちのとりくんだ栽培について大きい視点で考える。また、使った道具としての軍手を洗って再利用するのか新しいものを買うのかについて考える。 (思考・判断・表現)
- ・体験や知ったことをを通して、「食料を作る人（農家）がたいへんだからという理由で、生産をやめたら自分たちはどうなるのだろう」「食料（米、さつまいも）の栽培をするのは、自分たちの将来にどのように役に立つのだろう」といった問いかけに、自分のことばで考えを述べる。 (主体的に学習に取り組む態度)

### 3. 単元について

#### (1) 教材観

本単元では、「生徒たちがふだん食べている食料の栽培」、「食料の栽培のために必要な活動を体験すること」、「食料の栽培を体験することが、自分たちの将来にどのように役立つのかを考え述べること」を教材として取り上げる。

本学級では敷地の一角に畑を持っており、毎年、栽培をおこなってきた。今年度については、4月当初、昨年植えた玉ねぎやいちごが植わっている周りに雑草が生えている状態から、学習を始めた。大切な食料である玉ねぎやいちごを抜かないようにしながら、草引きをし、玉ねぎやいちごを収穫することも含め、本単元を進めた。

従来、本学級では食料の栽培を労働学習と位置づけていたが、本単元では生徒たちが生きていくために必要な学習であること、生徒たちの将来を豊かにする可能性のある学習であることをESDの視点から考えた。

総合的な学習の時間に取り組んだため、毎回の授業の始めに、その時の畑の状態から問題点を見つけ出し、それをどのように解決したらいいかを生徒たちに問いかけた。問題解決を繰り返す中で、自分の考えをことばで述べることができるようになっていった。

#### (2) 生徒観

本学級は、知的障害(4歳～9歳くらい)のある生徒が17名在籍する中学校の特別支援学級である。付属小学校の隣にある特別支援棟の2階で、知的障害のある生徒のための教育課程によって学んでいる。

この単元をおこなった総合的な学習の時間は、1年～3年の在籍生徒17名全員で授業をする。

生徒たちの実態としては、「自分のことは自分でしよう（身辺自立）」「自分の思ったことをじょうずに相手に伝えよう」「友達との関りをうまく持てるような行動をしよう」「相手の気持ちを考えよう」というような課題を持つ発達段階にある。

本単元に取り組む際、生徒たちから考えをことばで引き出すために、「体験をさせること」「生徒の身近な体験に寄り添うこと」「まだ見たことのない知識を伝えること」が必要であると考えた。

生徒たちに「体験をさせること」と「考えさせること」を両輪として授業を進めていかなければ、「自分のことばで、自分の考えを述べる」という段階には至らない。

こういったことを念頭において、授業を進めていき、生徒の発言を教師が共感を持ってとりあげていくうちに、生徒たちが自分のことばで考えを述べる、または書くことができるようになっていった。

また、ことばでの表現の難しい生徒でも、一生懸命畑を鋤で耕したり、米やさつまいもの収穫の時に喜びの声をあげたりするなど、体験をすることによって、単元の目標を達成できている場合があった。

### (3) 指導観

本単元の指導には、生徒たちがさつまいもや米といった身近な食料を栽培する方法を知り、体験することから始めて、一人一人の考えを少しずつ深め、視野を広げるよう、長期的な視野に立ってとりくんだ。

食料の栽培を体験した生徒たちは、それが手間のかかることであると感じ、「農家がたいへんだからという理由で、食料を作らなくなったら自分たちはどうなるか」という問いかけに対して以下のように答えるようになった。

- ・食べ物なくなっておなかがすいた状態が続いてしまって、死んでしまう。
- ・食料不足になる。栄養がなくなるし、人間が亡くなってしまう。
- ・食料のうばいあいがおこり、戦争になる。
- ・人がたおれて、国がなりたたなくなる。

また、あまり知らなかった飢餓状態にある海外の子どもたちの暮らしを動画で知り、次のような感想を述べた(書いた)。

- ・食べ物や水がなくて食べられないし飲めないことが、ありえないことだと思った。
- ・生きるために家族のための仕事をして、学校へ行けないなんて、かわいそうだ。
- ・僕はこういう子たちを支えてあげたい気持ちがあるので、こういう子たちも(飢餓にある子たちも)少しの勇気を持ってほしいと思いました。

### (4) ESD との関連

#### ・本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

相互性…自分たちがふだん食べている食料は、作る人がいて、それを家族が買って調理して、食べることができるようになっていくということ。その循環がなければ、自分が食べられなくなる可能性があるということ。

有限性…食べ物を専門に作っている人たちがいなくなると、食料が不足し、社会全体が困る事態になるということ。あたりまえにあると思っているものに、限りがあるということ。

責任性…食料がなくなると困ると気づいても、自分が何もしなければ事態はかわらないということ。自分やまわりの人が困ることにならないようにはどうすればいいのかを考え行動できるように

なるということ。

#### ・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

現在の学習を自分の将来に生かす力

食料の栽培という学習を通して、ふだん食べている食料の作り方やどのように作られているかを知り、将来に生かすことができることに気づく。

コミュニケーションを行なう力

自分の考えを自分のことばで述べるために、他の生徒たちがどのような発言をしているかよく聞きお互いの意見を話し合えるようになる。

協働的問題解決力

どのようにしたら自分たちで食料を栽培することができるのか、食料が足りなくなったらどうしたらいいのかをみんなで考え、行動することができるようになる。

#### ・本学習で変容を促す ESD の価値観

持続可能な生産

自分たちが食料の栽培のしかたを学ぶことが、将来につながる。

平和

食料が不足しないことが、平和につながることを知る。

国際理解

世界には、自分たちの知らない「飢餓」に会っている子どもたちがいる。

#### ・達成が期待される SDGs

- 1 貧困の撲滅
- 2 飢餓の解消
- 1 2 持続可能な生産と消費

#### 4 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
① 食料（米、さつまいも）の栽培のための準備、手順を知る。 ② 実際に畑の草引きをしたり、畑を耕して畝を作ったり、バケツに田の土を入れたりして、米、さつまいもの苗を植えた後、度々畑の整備をして食料を収穫する技能を身に付ける。	① 食料の栽培を体験して「たいへんだったこと」「一生懸命したこと」をふりかえり、栽培に必要なものは何か（土、水、肥料、光など）考えることができる。 ② 専門の農家の食料生産の実態を知ったり、日本のさつまいも生産の資料を調べたりして、栽培について大きい視点で考えることができる。 ③ 使った道具としての軍手の再利用について考えることができる。	① 「食料を作る人（農家）が生産をやめたら自分たちはどうなるのだろう」「食料の栽培をするのは、自分たちの将来にどのように役に立つのだろう」といった問いかけに、自分のことばで考えを述べる。 ② ことばでの表現の難しい生徒も含め、体験することによって自分の思いを表現することができる。

## 5 単元の指導計画（全16時間）

学習活動	○学習への支援	○評価 ・備考
<p>1 畑に作物を植えるには、畑がどのような状態になっていたらいいのか、そのために自分たちは何をしたらいいのかを考える。（4月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雑草がたくさん生い茂っている中に、玉ねぎといちごが植わっている4月末の畑の状態を知る。</li> </ul>	<p>○本学級の畑と、すでに畝を整えていた付属小学校特別支援学級の畑のようすを写真で見比べて、これからしなければならぬことを自分たちで考える。</p>	<p>ア① (知・技)</p>
<p>2 畑の草引きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植わっている玉ねぎといちごを抜かず、雑草のみを抜くように気を付ける。</li> </ul>	<p>○畑の雑草を抜くことで、畑にどのような影響を与えるのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土中の栄養が雑草にとられない。</li> </ul>	<p>ア② (知・技)</p>
<p>3 畑に畝を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・玉ねぎといちごを収穫した後、初めて使う道具「鍬」を使用して作業をする。</li> </ul>	<p>○畑の土をやわらかくしたり、畝を作ったりする作業が、作物を植えるのになぜ必要なのか考える。</p> <p>○鍬という道具がなぜこの作業に適しているのか、鍬を使うときの注意事項は何かを考える。</p>	<p>ア② (知・技)</p>
<p>4 さつまいもの苗を畑に植える。（6月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水平植えて間隔をとって植える。</li> </ul>	<p>○さつまいもができる場所を知り、水平植える理由を考える。</p> <p>○6月に植えると10月ごろ収穫できるという時間的な見通しを持つ。</p>	<p>ア② (知・技) ウ② (主体的)</p>
<p>5 苗に水やりをしたり、再び生えてきた雑草を抜いたりして、世話をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・苗がしっかり根付いて、作物ができそうかどうか楽しみな気持ちを持って世話をする。</li> </ul>	<p>○作物が育つために必要なものは、何か考える。（土、水、栄養（肥料）、日光、道具）</p> <p>○作物の成長を主体的に畑へ見に行く態度を大切にする。</p>	<p>ア② (知・技) ウ② (主体的)</p>
<p>6 畑の作業で汚れた軍手を洗って再利用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・汚れた軍手を「捨てる」か「洗ってもう一度使う」か、意見を出し合って決める。</li> <li>・洗った方がいいという意見の生徒は、「洗ったらきれいになって使いやすいから」「もう一度使える」「捨てるとうゴミが増えるから」。</li> </ul>	<p>○軍手を捨てて新しいものを使うか、洗って再利用するか、問いかける。</p> <p>○自分たちで班ごとに協力し、どのように洗うときれいになるか、考え、実行する。バケツ、洗剤などをどのように使うか考える。</p>	<p>イ③ (思断表)</p>
<p>7 さつまいも、米を収穫する。 食料について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さつまいもはどの県で収穫が多いか。</li> <li>・農家が「たいへんだから」という理由で食料の栽培をしなくなったら、自分たちはどうなるか。</li> </ul> <p>食料が足りない「飢餓」状態の国の子どもたちのようすを見て、考える。</p>	<p>○食料の栽培にどれほど手間がかかったか、ふりかえる。</p> <p>○農家のように多くの食料を作るにはどんな工夫とたいへんさがあるか話し合う。</p> <p>○農家が食料を作らなくなったら、自分たちはどうなるか、食料の栽培の体験が自分たちの将来にどのように役立つか考え意見を述べる。</p>	<p>イ①② (思断表) ウ①② (主体的)</p>
<p>8 自分たちで収穫したさつまいもを食べる。</p>	<p>○畑作りから収穫までの一連のとりくみを、食べることでより明確にふりかえる。</p>	<p>ウ② (主体的)</p>